

## 平成29年度事業報告

### 事業概要

シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）は、急速な少子高齢化が進展する中、地域社会を活性化の中核事業として、より一層の発展・拡充が期待されているところである。

このような中、第4次中期事業基本計画を活動指針とし、行政をはじめとする関係機関や地域社会の支援を受けながら、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもとに会員及び役職員が一体となって事業運営を強化・拡充し、地域社会の活性化に貢献する公益性の高い事業を展開してきた。

特に「会員の拡大」と「就業機会の拡大」に積極的に取り組み、地域イベントでの啓発用パンフレットの配布や鳥取市報に特集記事を掲載する等の普及啓発活動を行った。その結果、受託事業に一般労働者派遣事業の実績を加えた総実績額は283,424千円となり、前年度より10,555千円（前年度対比103.9%）の増となった。

会員数についても、平成27年度から継続して取り組んでいる会員募集用パンフレットの全戸配布の効果がみられ、入会説明会には249人（前年度対比107.3%）の参加者があり、その内、139人が入会した結果、平成29年度末の会員数は786人となり、目標値を大きく上回ることができた。また、受託事業と一般労働者派遣事業をあわせた総就業率は90.7%（会員数786人中、就業実人員713人）であった。

第4次中期事業基本計画に対する実績は、概ね目標を達成することができた。

以下、平成29年度の事業実施状況についてその概要を報告する。

### 【第4次中期事業基本計画に対する実績】

項 目		平成29年度	
		目標値	実績
会員数（人）		757	786
就業率（%）		90.9	90.7
受託事業	受注件数（件）	5,930	5,752
	契約高（千円）	262,700	262,789
	就業延人員（人日）	61,570	61,101
業派遣事	受注件数（件）	28	28
	契約高（千円）	17,600	20,635
	就業延人員（人日）	3,420	5,153

# 1 事業実施報告

## (1) 就業機会提供事業

### ① 雇用によらない就業機会の提供

高齢者にふさわしい地域に密着した仕事を一般家庭、民間企業及び公共団体等から有償で引き受け、会員の能力、希望等に応じて請負又は委任という形式で就業機会の提供に努めた。

受託事業については、安定した就業機会の確保に努めた結果、民間企業の継続作業が複数件確保できたことや、単年の地域イベント関連事業を受託したこと等により、契約金額は前年度を 5,746 千円上回る 262,789 千円となり、102.2%の増となった。

指定管理者として受託した駐輪場管理運營業務の実績は下記のとおりである。

ア 鳥取市営鳥取駅高架下第 1、第 2 自転車駐車場（駐輪場）の指定管理者として、再指定され、4 年が経過した。この間「親切・丁寧な対応、清潔で快適な自転車駐車場」を目指して、適正な管理運営に努めた。学生の利用者が年々減少する中、利用者の確保に努めた結果、今年度実績は、当初計画 14,415,000 円に対し、13,972,244 円（達成率 96.9%）と概ね目標を達成することができた。

イ 提案事業であるパンク等の修理を行う「自転車有料修理サービス」は、代用自転車の貸し出しと迅速な対応がお客様に好評で 229 件、386,075 円の実績をあげることができた。

ウ 鳥取市から譲渡を受けた放置自転車の修理再生を行い、16 台を市民に提供し、会員の就業機会の拡大と資源の再利用に努めた。

エ 利用者満足度アンケート調査を実施したところ「いつも笑顔であいさつしていただいています。とても入りやすい雰囲気があり、安心して置けます。」等、接客マナーは大変好評であった。

オ 利用者から、自転車に乗せるためのラックが高く間隔が狭いので、改善を求める要望がよせられていたため、第 2 駐輪場のラックを一部取り外して施設面での利便性の向上を図った。また、第 1 駐輪場の夜間コーナーの拡張を図り、より多くの方が利用できるよう改善した。

### ② 雇用による就業機会の提供

適正就業の推進及び高齢者への幅広い就業ニーズの対応を図るため、一般労働者派遣事業（シルバー派遣事業）及び職業紹介事業による就業機会の提供に努めた。

一般労働者派遣事業は、平成 27 年 9 月末に改正労働者派遣法が施行され、60 歳以上の派遣労働者については、派遣期間が 3 年という制限を受けることなく働くことが可能になった。このメリットを活用しシルバー派遣事業の拡大に努めた結果、派遣件数 28 件、派遣就業延人員 5,153 人日、派遣契約金額 20,635 千円（前年度対比 130.4%）と事業実績を伸ばすことができた。

今後も今まで以上に会員の就業能力や資質を高めていくとともに、専門的な知識や会員の経験を生かすことができる就業場所の確保に努めていくこととする。

なお、職業紹介事業については、求人、求職ともなかった。

## (2) 研修・技能講習事業

シルバー事業の基本理念及び仕組み等に対する理解を深めるための研修会並びに就業に必要な技能や知識の習得及び後継者の育成を図るための技能講習会を開催するとともに、高齢者の健康維持、体力増進のための講座を開催した。

## (3) 安全・適正就業推進事業

高齢者の就業に当たっては、安全就業を基本とし、事故防止対策に組織をあげて取り組まなければならない。高齢者が安全かつ適正に就業できるよう安全就業対策の徹底及び就業形態の適正化を図り、事故防止に努めた。

- ① 会報「シルバーとっとり」への啓発記事の掲載や職群班会議における注意喚起等、あらゆる機会をとらえて積極的に事故防止に取り組んだ。
- ② 会員連絡網を活用して、剪定作業や草刈り・除草作業に就く会員に、熱中症の注意喚起等、緊急度の高い情報を速やかに伝え、安全確保を行った。
- ③ 会員の安全意識の高揚と就業中若しくは就業途上における事故防止のため、安全・適正就業部会が不定期で「安全就業の日」に安全パトロールを実施した。特に7月の「安全・適正就業強化月間」には役員も参加し、安全指導を行った。
- ④ 7月中旬から8月にかけて、短期間に集中的に事故が多発し極めて重大な事態となったため、全会員に安全適正就業を促す注意喚起文を郵送し、再発防止に努めた。
- ⑤ 「安全大会」を開催し就業ルールを再確認するとともに、個人情報の適正な取り扱い等について周知を図った。

## (4) 普及啓発事業

地域社会にシルバー事業を広くPRすることにより、シルバー事業の意義、活動内容等が正しく理解されるよう普及啓発活動を積極的に行った。

- ① 各地区の公民館や自治会の協力のもと、会員募集パンフレットを全戸配布するとともに、鳥取市報に特集記事を掲載する等、シルバー事業を広く地域にPRした。
- ② 10月の全国シルバー人材センター事業普及啓発促進月間にあわせ、普及啓発部会による街頭でのパンフレットの配布、女性部会による地域イベントへの参加等、シルバー事業のPRに努めた。
- ③ 地元新聞社及びテレビ局への取材協力等、マスメディアを活用した普及啓発活動を行った。また、会報「シルバーとっとり」を年2回発行するとともに、ホームページを適宜更新し、活動内容を分かりやすく情報提供するよう努めた。

## (5) 就業分野の開拓・拡大事業

就業機会の拡大のため、高齢者の希望に応じた多様な就業機会の開拓に努めた。また、地域班連絡協議会を通じて会員ひとり一人が積極的に就業開拓に取り組むことを依頼し、会員の運営参画による就業機会の拡大に努めた。

- ① 役員が事業所等を訪問し、日頃のお礼と継続利用をお願いした。発注者からは「朝夕の時間帯に来ていただいている。人手が少ない中、よく助けていただいている。」等の感謝の声をいただいた。今後も、より一層発注者が満足される親切、丁寧な仕事を心掛けていくこととする。

- ② 鳥取市が中小企業の活性化及び支援の目的で発行しているパンフレットに本センターの活動内容を掲載し、新規就業先の拡大を図った。

## (6) 福祉家事援助・子育て支援事業の推進

高齢者が長年培ってきた豊かな経験と知識を活用し、地域社会の要望を踏まえながら、地方公共団体と連携して地域密着型の事業を展開し、地域社会の活性化に貢献した。

- ① 鳥取市と連携した応急軽度支援事業、高齢者の日常生活を支える家事援助サービスに対応することができるよう会員交流研修会及び各種講習会を開催した。
- ② 平成 27 年度の介護保険制度の改正に伴い、鳥取市が新たに開始する事業「介護予防・日常生活支援総合事業」では元気な高齢者の活躍が求められており、これを就業機会拡大のチャンスとして捉え、協議体に参加し、意見交換を行った。
- ③ 「介護・子育て」事業の一環として毎月 1 回「にこにこ広場」を開催した。「にこにこ広場」は、0～3 歳の乳幼児を対象に会員が子育ての知識や経験を生かしながら、母親の相談相手、ストレス解消も兼ねた情報交換の場としてボランティアで子育てを支援するものである。参加者からは「手遊びをみんなでできて、母の方がリフレッシュできました。いろんな方との関わりができて嬉しいです。ぜひ、また来たいです。」等の感謝の声をいただいた。
- ④ 「鳥取市子育て支援ネットワーク」のメンバーとして、健診ボランティアに協力するとともに、子育て支援者会議に参加し、他の登録団体と情報交換を図った。

## (7) 社会参加活動推進事業

高齢者の社会参加活動を支援するため、市内の公共的施設等の清掃ボランティア作業を行い、地域社会に貢献するとともにシルバー事業の社会的意義の周知に努めた。

## (8) 調査研究事業

会員の就業実態及び運営状況等について発注者の評価を伺い、今後の事業運営に反映させるため、発注者満足度アンケート調査を実施し、お客様に提供するサービス内容の改善に努めた。なお、調査結果は、会報「シルバーとっとり」及びホームページで市民に公表した。また、毎月事業実績等各種データの集計及び分析を行った。

## (9) 相談、情報提供事業

入会を希望する高齢者のために毎月 2 回入会説明会を実施するとともに、就業に関する相談、定年後の就業や社会参加を希望する高齢者のために情報を提供した。

また、ホームページを活用して講習会の開催計画、イベント等の紹介及び就業に関する情報を積極的に提供した。

「用瀬取次所」を活用して地域住民に情報提供するとともに、地域イベントに協力し、地域活性化に努めた。

## (10) 組織の活性化と運営体制・財政基盤の強化

### ① 理事会、専門部会及び各委員会等

役員は、定款に定める総会、理事会の開催と規程等に基づく各種会議や研修会を開催し、公益社団法人として適正かつ円滑な運営に努めた。また、全国シルバー人材センター事業協会、中国ブロックシルバー人材センター連合協議会、鳥取県シルバー人材センター連合会主催の研修会及び経験交流会に参加し、研鑽に努めた。

理事は専門部会（組織部会、普及啓発部会、事業推進部会、安全・適正就業部会、女性部会）のいずれかに所属し、分野ごとに職務を遂行した。

### ② 地域班・職群班活動

地域班連絡協議会を年5回開催するとともに、地域班会議、職群班会議及び事務局・会員相互の交流のための会員交流会を開催した。

### ③ 事務局体制の強化

事務局は、高齢者の就業意向や発注者からの仕事の依頼等、重要な情報が集まる場である。多様化する事務局運営に十分に対応するため、各種研修会や講習会に積極的に参加し、職員の資質と事務能力の向上に努めた。

### ④ 安定した財政運営の推進

国のシルバー事業実施要領等の見直しにより事業成果が問われる中、受注拡大による自主財源の確保に努めた。